

## 執筆者紹介

所澤新一郎 しよざわしんいちろう 本研究所客員研究員・共同通信社編集局気象・災害取材チーム長

三澤一孔 みさわ かずよし 本研究所客員研究員・NPO ウォーターエイドジャパン 広報・アドボカシー  
マネージャー

大矢根 淳 おおやね じゅん 本学人間科学部教授

## 〈編集後記〉

今号は2本の論稿を掲載している。所澤新一郎・大矢根淳「調査報告 減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相（I）—被災地石巻での聞き取り調査から：『仮設住宅』生活を射程に—」および、三澤一孔・大矢根淳「外部支援者が介在した被災コミュニティ回復の模索と課題—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ、そして未被災地の事前復興へ—」である。2本とも、大矢根所員らによって継続的に行われている被災地の復興に関する調査を土台にしている。生に近い資料としても重要なものである。

所澤・大矢根論稿は、2019年2月に石巻市で行なった4団体のインタビュー記録を基にしたものである。子どもたちの居場所・遊び場づくり、仮設入居者たちの移動支援、仮設住宅などでのコミュニティづくり、仮設診療所による健康ケアに取り組んでおられる方々からの貴重な記録となっている。

三澤・大矢根論稿は、阪神・淡路大震災、東日本大震災そして熊本地震を時系列として抑えている。すでに経験した災害と復興の経験が、試行錯誤を経ながらも、新たに発生した災害対応に生かされるように知見として継承されてきていること、さらには「事前」復興につながるようにする必要があることなどが論じられている。

災害直後は災害という非日常的な出来事における復興であることはその通りだとしても、時間が経過すると災害復興に限定されない一般的なまちづくりの課題との連続性が顕著になってくるのだということも感じられた。被災地における子どもの居場所づくりの課題が、学校教育の外にそれを必要としている被災地以外の子どもたちの課題と重なってきていることも、私の研究領域が教育学であることもあり、印象深かった。

(H.H)

---

2019年6月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 宮 寄 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561

---